

教育関係共同利用航海 公募要項

1. 平成 31 年度に実施する教育関係共同利用航海のうち共同利用単独航海

- (1) 申込資格・・・附属練習船を利用し、単位認定を伴う実習の実施を目的とした国立大学法人又は公立・私立大学等に所属している機関。
- (2) 申込様式・・・(別紙様式 1) 必要事項を記入後、郵送ください。
- (3) 申込期限・・・平成 30 年 10 月 31 日(水)

2. 平成 29 年度に実施する教育関係共同利用航海のうち公開実習航海(混乗)

NO	日 程 (主な指導教員)	実 習 名 等	概 要	特別聴講学生 応募期限
1	H30.4.7～10 (宮崎准教授)	水産生物学実習 (水産生物学実習航海)	海洋生物を採集し諸形質の計測と解剖を行うとともに、生物試料を組織、生理、遺伝子実験に供するための船上での処理・保存方法を学びます。また水深、塩分、水温などの海洋観測を実施することにより海洋生物の生息環境を理解します。	H30.3.1
2	H30.6.9～13 (石川教授)	海洋環境調査実習 (海洋観測実習航海)	沿岸・外洋での海洋観測及び各種試料の採集・観察を通して、現場のプランクトンが海洋の物理・化学的環境要因と密接に関係して生態系を支えていることを学びます。	H30.4.20
3	H30.8.19～30 (前川船長)	海洋総合航海実習 (底生生物調査実習航海)	洋上での試験操業、海洋観測作業、採集された生物からのデータ収集、データに基づく解析など実施し、海洋生物資源の調査手法を実践的に身につけます。試験操業は LC ネットを用いて東シナ海で実施する予定です。なお本実習は 11 泊 12 日の航海により実施します、悪天候等の理由により陸上実習を課す場合もあります。	H30.6.22
4	H30.10.2～5 (森川准教授)	海洋生物資源調査実習 (海洋生物資源調査実習航海)	海洋生物資源と海洋環境に関する調査方法について講述するとともに、洋上での生物採集作業、海洋観測作業、採集された生物からのデータ収集、データに基づく解析など実施することにより、海洋生物資源の調査手法を実践的に身に付けます。	H30.7.20
5	H30.10.16～20 洋上 1.5 日 陸上 1.5 日 (石川教授)	紀伊黒潮流域圏航海実習 (海洋食文化実習航海 ～伊勢湾～)	近年、日本の魚食文化が世界で注目される一方で、日本では魚離れが起きているといわれます。このような中で、魚食文化の正しい理解を次世代の担い手である学生に伝えていくことは、水産学に携わる者の重要な使命であると我々は考えます。	H30.9.21
6	H30.10.24～28 洋上 1.5 日 陸上 1.5 日 (石川教授)	紀伊黒潮流域圏航海実習 (海洋食文化実習航海 ～志摩～)	練習船では、教育関係共同利用拠点の認定に伴い、古来より日本人の食生活を豊かにしてきた地域の食文化に関する実習を取り入れた海洋・食文化実習航海を提供します。そして、私たちが海洋から受けている恩恵(生態系サービス)を実感・体験します。	H30.9.21
7	H30.11.5～9 (立花教授)	陸海空・環境科学実習 (大気海洋相互作用調査実習航海)	伊勢湾内や熊野灘海域や黒潮上において、ラジオゾンデを使用した高層気象観測や CTD を使用した海洋観測を行います。季節によっては、津の局地風『鈴鹿おろし』を捉えるためのラジオゾンデ観測も行います。取得したデータから、大気と海洋がどのように影響しあっているのか、黒潮内外での大気構造の違いがどのようになっているのか、鈴鹿おろしが吹いているときの大気構造がどのようになっているのかを学びます。	H30.9.21
8	H30.11.12～16 (立花教授)	陸海空・環境科学実習 (大気海洋相互作用調査実習航海)		H30.9.21

- (1) 募集対象 国立大学法人又は公立・私立大学等に所属している機関の学生。
- (2) 受講の基準 本研究科教授会が、当該授業科目を履修するに十分な学力があると認めた学生。NO1～6については、四年制大学3年生以上、NO7・8については、四年制大学・短大2年生以上であることが必要です。
- (3) 申込書類等（提出方法：郵送またはメール便等配送記録があるものに限る）
1. 特別聴講学生入学願 (別紙様式2)
 2. 履歴書（要写真添付） (別紙様式3)
 3. 所属大学学部長または学科長の承諾書 (別紙様式4)

【乗船(受講)決定後に必要となる書類】*上記1-3と同時提出可

4. 学生教育研究災害傷害保険(若しくは、それに準ずる保険に加入している事)・同付帯賠償責任保険(若しくは、それに準ずる保険に加入している事)への加入を証する書類の写し

3. その他

- (1) 乗船(受講)者の決定
所属大学の担当者にお知らせいたしますが、定員等の都合上、ご希望に添えない場合がございますので、予めご了承ください。
- (2) 乗船に係る主な費用
1. 食事代(朝食300円/1食・昼食400円/1食・夕食400円/1食)
 2. クリーニング代 500円/1航海
- (3) 乗船港までの交通費・下船港からの交通費は自己負担。
- (4) 遠方からの乗船者は、出港前日の「船内前泊」が可能です。
- (5) 公開実習航海(混乗)NO7、NO8 紀伊黒潮流域圏航海実習(海洋食文化実習航海)に係る費用
両コースとも1万前後の費用がかかります。参考に昨年度の実績は以下の通りです。
1. 尾鷲コースに係る実習費用(参考：平成28年度実績として)
船上朝食(1食)300円・船上昼食(2食)800円・船上夕食(1食)400円・クリーニング代500円
宿泊代(民宿)6,300円・郷土料理実習費1,000円
合計：9,300円
 2. 志摩コースに係る実習費用(参考：平成28年度実績として)
船上朝食(1食)300円・船上昼食(1食)400円・船上夕食(1食)400円・クリーニング代500円
2日目昼食(弁当代)1000円・宿泊代(旅館)8,000円・郷土料理実習費700円
合計：11,300円

申込先・問い合わせ先

〒514-2221 三重県津市高野尾町2072-2
国立大学法人三重大学 大学院生物資源学研究科
附属教育研究施設チーム(練習船担当)
電話 059-230-1143 FAX059-230-1463 Mail: ship2012@bio.mie-u.ac.jp